

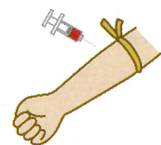
# 身近な血液疾患、「貧血」について



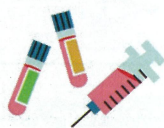
小山市のみなさん、初めまして。  
血液内科の多々良です。  
本日は身近な血液疾患である「貧血」  
について、少しでも深く知っていただき  
たいと思います。ポイントは、「**貧血の時には「網状赤血  
球数」をみよう!!!**」です。



職場や自治体の健康診断、あるいは  
定期通院中の採血で、しばしば「貧血」を  
指摘されることがあります。この場合の貧血は、頭がク  
ラクラするような立ちくらみ症状、いわゆる「脳貧血」と  
は異なります。



私たち医師が使う「貧血」は、血液中  
の「赤血球の量(厳密には循環赤血球容  
量)」が少なくなる状態のことをいいま  
す。血液検査データを見ると「血色素」とか、「ヘモグロ  
ビン」とか、「Hb」などと書かれた項目があります。この  
数値が正常より低下している場合を「貧血」というので  
す。ちなみに我々医療者は、「脳貧血」という言葉は使い  
ません。



さて、私たち血液内科医が貧血の患  
者さんを診る時、まず初めに確認する  
データは何でしょうか？

それは「網状赤血球」です。これはヒト  
に例えると中学生～高校生くらいの成人式前?の赤血  
球のことです。



赤血球が多く作られる状態におい  
ては、まだ未成熟の子供赤血球も増える  
ので(赤血球のベビーブーム)、網状赤  
血球数も増加します。一方、赤血球生産が抑制される状  
態においては、未成熟な子供赤血球は減るので(赤血  
球の少子化)、網状赤血球も低下します。通常、赤血球が  
減る貧血では、足りなくなった赤血球を補おうとするの  
で、赤血球数は増産体制に入り網状赤血球数も増加し  
ます。



貧血を理解するには、自動車生産  
をイメージすると良いのかもしれませんが。



鉄やアルミニウムなどの材料が不足したら、製品で  
ある自動車(=赤血球)は作られません。

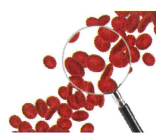
工場(血液の工場は骨髓といいます)の機械が故障  
していたり、停電のために機械が動いていなかったら、  
これも製品である自動車(=赤血球)は作られません。  
あるいは、作ったとしても不良品ばかり作ってしまった  
としたら、検品段階で不合格になってしまい、製品で



ある自動車(=赤血球)は市場(=私  
たちの体)に出ることはありません。

こういった生産低下による貧血で  
は網状赤血球が低下するのです。別の言い方をするな  
らば、網状赤血球低下型の貧血をみた場合には、材料  
不足や工場の故障がないかを考えるのです。

一方、自動車の海外での売れ行き  
が非常によく、製品のほとんどが輸  
出されてしまったとしましょう。そう  
すると国内市場(=私たちの体)には製品である自動車  
(=赤血球)が不足します。材料の不足も工場の故障も  
なければ増産体制に入れるはず。網状赤血球も増  
加します。別の言い方をするならば、網状赤血球増産方  
の貧血をみた場合には、赤血球消費亢進がないかを考  
えるのです。



赤血球消費亢進型の貧血は、①出  
血、②溶血のどちらかであることが圧  
倒的に多いです。一方、生産低下型の  
貧血は種々の原因が考えられるため、もう少しヒントが  
欲しいところ。そこで私たちはMCV(平均赤血球容積)  
をみます。これが上昇しているのか(=大球性貧血)、正  
常範囲内なのか(=正球性貧血)、それとも低下してい  
るのか(=小球性貧血)、貧血の3つのタイプに分類しな  
がら原因となっている病気を絞っていくのです。

例えば、小球性貧血のパターンをとる代表選手が、最  
も身近な貧血である「鉄欠乏性貧血」です。

紙数が尽きたので、今回の貧血のお話はここまで。  
続きはいつかまた。それでは皆さん、ごきげんよう。

血液内科部長 多々良 礼音